

関西エネルギープラン（案）に対するご意見・ご提案と関西広域連合の考え方

平成26年3月

関西広域連合本部事務局エネルギー検討会

関西エネルギープラン（案）に関する意見募集を行った結果、5名から延べ5件（うち意見の公表を望まないもの0件）のご意見・ご提案をいただきました。

いただいたご意見・ご提案に対する関西広域連合の考え方は下記のとおりです。

I 低廉で安全かつ安定した電力供給体制の構築に向けて について

整理番号	ご意見・ご提案	関西広域連合の考え方
1	<p>関西広域連合の取組の中でI-1, 4, 5の中で国への提案等が書かれていますが、策定の趣旨にある「関西における望ましいエネルギー社会の実現」する為の取組としては、ほんとうに実現する気があるのか疑問だと思いました。</p> <p>国への提案を時間とお金をたくさんしても（しないよりかはいいですが）国が「関西とは考え方が違います」と言われれば、まったく関西における望ましいエネルギー社会は実現しないと思います。</p> <p>したがって関西広域連合の取組について（7項目）は再検討をしてもっと戦略的に取組内容を策定してほしいと思います。</p>	<p>国のエネルギー政策については、エネルギーを取り巻く国内外の状況の転換期を迎え、制度や仕組みが大きく変わろうとしています。</p> <p>電力需給の仕組みや電源構成のあり方、制度設計などについては、地球温暖化対策とも関連づけた上で、国において広く国民の理解の下に適切に作られるべきものであり、国への提案等を行っていくことは、関西広域連合として重要な取組であると考えています。</p> <p>また、関西広域連合としては、省エネの推進や再生可能エネルギーの導入促進等について、地域の実情を踏まえ、重点目標を掲げるなど、構成府県市等との連携と役割分担の下、総合的に取組を進めていくこととしています。</p>

2	<p>1 国のエネルギー施策・電力システム改革に向けた対応</p> <p>現行の政権が“原発の再稼働”に向けて、2014年は再び熱を帯びる動きですが、「関西広域連合」としては、関西圏独自の政策を住民に訴えていくスタンスを取るべき時期である。</p> <p>内閣府国家戦略室の「コスト等検証委員会」報告によると、石炭や液化天然ガスによる火力発電は、CO2 対策や燃料費の上昇を考慮しても、今後技術の向上によっては、発電効率の上昇が見込まれることなどから、“原子力発電”とのコスト競争力を持ちうるとしている。さらに、“風力”や“地熱”なども条件次第では、“原子力発電”にも対抗しうる。そして“太陽光”に関しては、量産の効果なんかによってコストの低下が見込まれて、火力発電や石油での火力よりも、だんぜん優位となって、もしも条件の良い場所なんかをフルで活用したら、現在ピーク時点での電源を担っている“火力発電”や“水力発電”や“ヒートポンプ発電”などに代替してくれることが期待をもてることだろう。内閣府の報告でも“原子力発電”にかかるコストが、従来言われていたものよりも、いかに高いことかは、明らかである筈だ。しかも、この報告書でも、まだまだ“原子力発電”にかかるコストが過小評価されているのもリポートされている。いまだに原発頼みの現状。すでに企業の中には、省エネの技術開発に進んでいる。だから、関西独自の政策を構築すべきなのである筈です。早いことの政策の立案を!!</p>	<p>関西では、厳しい節電対策や電力料金値上げを経験するなど、近年、エネルギーを取り巻く状況は非常に厳しく、地域の実状を踏まえ、需要者の視点に立って、エネルギー問題に取り組んでいくことの重要性が一層高まっています。</p> <p>このため関西広域連合は、望ましいエネルギー社会の実現に向け、重点目標として“再生可能エネルギーの積極的導入”を掲げるとともに、低廉で安全かつ安定した電力供給体制の構築や、省エネの推進、再生可能エネルギーの積極的導入、エネルギー関連技術の開発等の促進に取り組むため、関西エネルギープランを策定し、構成府県市等との連携と役割分担の下、総合的に政策を進めていきます。</p>
3	<p>3 地域分散型電源の導入の推進（“地域エネルギー”の創出）</p> <p>地域の状況に応じ、再生可能エネルギーの積極的導入や高効率なコージェネレーション、蓄電池などの分散型電源の導入を推進する旨が記載されておりますが、「燃料電池」も分散型電源の一つとして大変注目されております。</p> <p>「高効率なエンジン・燃料電池コージェネレーション」と記載されてははいかがでしょうか。</p>	<p>高効率なコージェネレーションについては、資源エネルギー庁の資料をもとに、蒸気タービン併設ボイラ、ガスタービン、ガスエンジン、ディーゼルエンジン、燃料電池など（資源エネルギー庁HP「コージェネ基礎データ集」参照）を想定しており、ご指摘のエンジン・燃料電池もコージェネレーションに含めています。</p>

4	<p>私はこの中ではP5の7の夏・冬のピーク日の電力需給見通しの検証が必要だと思いました。</p> <p>なぜなら、電気は夏に冷房を冬に暖房をよく使うので、そのなかで節電するのは本当に難しいので、どうやって節電するのかそこをよよく話し合っていくのが大切だと思います。</p>	<p>関西広域連合では、電力需給のひっ迫が懸念された平成24年度の夏以降、専門家のご意見も伺いながら電力需給の見通しを検証するとともに、節電の方法をお示ししたチラシなどにより、府県民や事業者の皆様に節電をお願いしてきました。</p> <p>ご家庭での取組は大変重要ですので、できるだけ分かりやすく情報を発信していきます。</p>
---	---	--

Ⅲ “地域エネルギーの創出” ～再生可能エネルギーの積極的導入～ について

整理番号	ご意見・ご提案	関西広域連合の考え方
5	<p>2020年 再生可能エネルギーの導入目標ですが、これから関西に十数基ある原発が順次廃炉になっていく可能性を想定すれば、最低1000万KW程度の再生可能エネルギーの導入を強く推進すべきであると考えます。</p>	<p>再生可能エネルギーの導入目標については、既に独自の目標を設定している構成府県の目標数値等を踏まえて設定したものであり、達成状況等を毎年度確認するとともに、より進化した目標の設定について積極的に検討していきます。</p>